

【別紙様式】

課題名：種子島の強みを活かしたブロッコリー産地の育成

所属名：熊毛支庁農政普及課

発表者名：角 隆太郎

＜活動事例の要旨＞

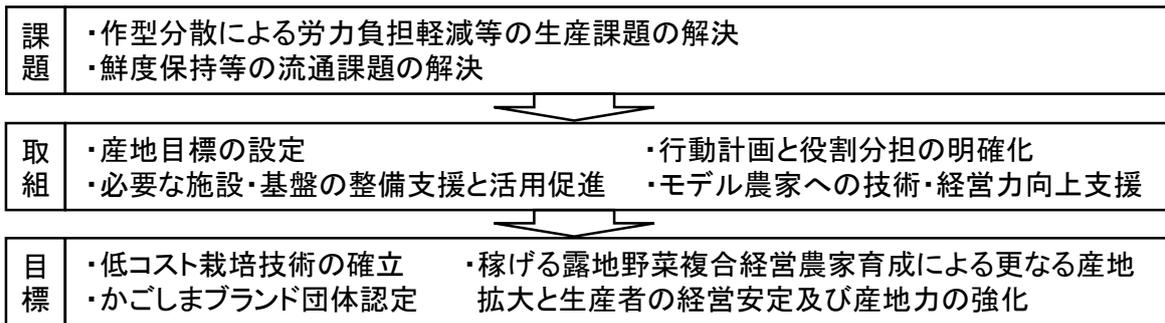
関係機関・団体一体となった指導・支援体制を構築し、種子島におけるブロッコリー産地育成の目標達成に向け、産地課題の解決に取り組み、県内有数の産地育成と産地力の強化（種子屋久農協がかごしまブランド団体に認定）が図られた。

1 活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由

種子島では、温暖な気象条件と生育期の秋冬期に病害虫の発生が少ないなどの条件を活かした春どりブロッコリーの栽培が行われているが、作型分散による労力負担軽減や鮮度保持など生産・流通課題を解決し、更なる産地拡大と生産者の経営安定を図るため、種子島の強みを活かした低コスト生産技術の確立、稼げる露地野菜複合経営農家の育成、かごしまブランド団体認定による産地力の強化を目標として取り組んだ。

(2) 計画の策定過程



2 普及指導活動の内容

(1) 活動の経過

ア 産地目標の設定

①露地栽培での低コスト春どり栽培技術の確立、②育苗の分業化、③作型分散等（調査研究）による経営規模や産地規模の拡大、④かごしまブランド団体認定による産地力強化を目標とし、関係者で共有した。

イ 行動計画と役割分担の明確化

市町、農協、農開C熊毛支場、熊毛支庁農政普及課等における、集出荷体制の整備、生産者組織育成、契約取引の推進、産地拡大やブランド団体認定に向けた機運醸成、栽培技術の確立など産地目標達成に向けた行動計画と役割を明確にし、的確な進捗管理を実施した。

ウ 必要な施設・基盤の整備支援と活用促進

産地の生産・流通課題解決のため必要となる優良種苗供給体制や鮮度保持等に係る施設・機器等の整備及び活用促進に向けて、関係機関一体となって取り組んだ。

エ モデル農家への技術・経営力向上支援

安納いも＋ブロッコリーの新しい露地野菜複合経営類型を提案するとともに、作型分散による大規模ブロッコリー農家育成を図った。

(2) 指導・支援の体制

園芸振興協議会種子島支部の重点品目として位置付けるとともに、かごしまブランド熊毛地域推進本部におけるブランド候補品目として、市町、農協、農開C熊毛支場等の関係機関団体一体となった効果的な産地課題解決、産地支援を行う体制を構築した。

3 普及指導活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア 露地栽培での低コスト春どり栽培技術の確立

現地実証での、地域に適した品種選定と栽培管理技術の確立、種子島ブロッコリー専用低コスト肥料の開発・普及等により、11月～4月出荷作型での無被覆低コスト生産が可能となった。

イ 育苗の分業化と作型分散等による経営規模や産地規模の拡大

種子屋久農協がセル苗全量を生産者に供給する体制が整い、また、早どり作型と遅どり作型の栽培技術が確立され、定植時期が11回（9月中旬から1月上旬）に分散されたことで、規模拡大が進み、県内最大の産地となった(H27:18ha, R3:108ha)。

ウ かごしまブランド団体認定

生産者組織及び農協へのブランド団体認定申請に向けた働きかけや産地課題解決の支援等により、種子屋久農協がブロッコリーでは県内初となるかごしまブランド団体となった。

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

ア 作型の拡大により収穫時の労力分散が図られ規模拡大が可能となり、所得拡大につながった。

イ かごしまブランド団体に認定されたことで、自信と誇りを持って生産に取り組めるようになった。

(3) 地域農業振興への貢献

さつまいも後地でのブロッコリー作付が拡大し農地の有効利用が図られるとともに、ブロッコリー栽培に取り組む新規就農者等が増加し、担い手確保・育成に貢献できた。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題

各作型における更なる収量・品質向上に向けた適品種の選定や栽培管理技術の向上、加工業務用栽培の取組、病害虫・強風・鳥害等の防除対策の確立、生産資材高騰への対応等が必要である。

(2) 今後の活用に向けて

多くの島内農業者が、さつまいも基腐病の被害により、所得が不安定なことから、所得向上のためブロッコリー栽培の推進を行うとともに、ブランド産地として、安定した生産と供給が継続できるよう、引き続き産地課題の解決を図っていく。



写真① ブロッコリー栽培風景



写真② ブロッコリー出発式